

3 地域福祉の推進

<A 基本計画の目標>

だれもが住み慣れた地域での支え合いにより、安心して豊かな生活を送るためのまちづくりをめざします。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	39.7 %	47.2 %	45.6 %	48.9 %	46.4 %	↓

<C 目標達成に向けた23年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

	自己評価
【健康福祉部】 小地域を中心としたサロン活動や見守り活動、世代間交流事業など、地域福祉活動の情報収集、整理、提供を行うと共に、福祉関係機関との連携により、情報提供の一層の充実に努めました。また、WEBによる地域福祉情報の発信を目指し、鎌倉市地域福祉支援室の事業として、地域包括支援センター共通ホームページの立ち上げ支援をおこないました。	◎
地区社協、自治町内会、民生委員児童委員、住民等が主体となった地域福祉課題の解決や、活動の充実に目指す懇談の場づくり支援を行うとともに、高齢者生活支援サービスの分野で活動を行うNPO団体等と、課題解決や活動充実にために連携を深めました。 また、地域における障害福祉サービス充実のため、相談支援事業者や居宅介護事業所との協働により、関係機関相互の情報共有を図るため連絡会開催支援を行いました。	○
人材育成を目的として、在宅高齢者生活支援サポーター養成講座の他、各種研修会を開催・参画しました。	○

前年度当初目標に対し、◎＝80%以上○＝50%以上△＝30%以上×＝30%未満

<D 前回の市民評価委員会などからの指摘への対応状況>

市民評価委員会などからの指摘

指摘等に対する改善策・対応など

【健康福祉部】

地域福祉の推進は、過渡期は行政の積極的な支援が必要であり、地域福祉支援室が意図している、地域に出向いて地域のニーズや課題を把握し、課題への対応を指導していくことはとても重要である。これらを実現していくためには、行政と社会福祉協議会の密接な連携が必要であり、地域支援チームのような仕組みの構築が求められる。



市と市社会福祉協議会との協働による地域福祉支援室は、一定の評価をいただいているところであり、その運営の中で、地域福祉の推進のために、それぞれが果たすべき責務を認識しながら、より密接な関係を市社会福祉協議会と築いていきたいと考えています。

<E 23年度未達成事業の課題・問題点など>

【健康福祉部】

地域住民が「地域で必要なことは地域で考えていく」意識を持って、自らが地域課題の解決に向けて取り組めるように啓発していくことと併せ、地域福祉支援室ホームページを早期に立ち上げ、地域福祉支援室の認知度と地域福祉への関心度を高めていく必要があります。

※未達成の理由<支障となった理由>

<F 今後の展開(取組方針)>

【健康福祉部】

地域福祉懇談会や地域ケア会議がより活発になるように、未実施の地域で開催への支援を行なっていきます。また、福祉活動の推進役となる人材を発掘し、育成していくことで、地域住民の地域福祉に関する意識の向上につなげていきます。

ホームページなどの手段により、身近な地域情報を提供していきます。また地域福祉支援室の取り組みが広く市民に伝わり、活動への理解が深まるよう周知方法・広報活動の改善していきます。

<G 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H20	H21	H22	H23	H22年度 目標値	H27年度 目標値
福祉ボランティア 団体構成員数(+)	社会福祉協議会で把握している福祉ボランティア団体の登録者数	2,375 人	2,230 人	2,178 人	1,886 人	1,979 人	2,400 人	2,500 人
地域福祉活動の必要度(+)	何か困ったことがあったとき、隣近所などと助け合うことができる市民の割合	61.0 %	61.8 %	59.3 %	62.9 %	63.2 %	66 %	69 %

<H 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	1,366千円	5,723千円	4,997千円	4,587千円				
	(国・県)	0千円	0千円	0千円	0千円				
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円	0千円				
	(一般財源)	1,366千円	5,723千円	4,997千円	4,587千円				
	人員配置数	0.5人	0.7人	0.7人	0.5人				
	人件費 (B)	4,597千円	6,477千円	6,281千円	4,409千円				
	総事業費(A+B)	5,963千円	12,200千円	11,278千円	8,996千円				
	対前年比		204.6%	92.4%	79.8%				

鎌倉市民評価委員会の評価

～評価委員は、この分野の取組について次のように評価しています。



評価できるところ

- ・地域福祉支援室への期待と評価に期待する。
- ・自らが地域課題の解決に向けて取り組めるように啓発していく、との趣旨を評価する。
- ・各地区協議会、民生委員など福祉機関の連携を深める懇談の場所づくりは大切である。
- ・行政が指導しながら地域住民も加わって今後も定期的に行ってほしい。
- ・福祉ボランティア団体の登録者数が増加した。
- ・小地域の見守り活動、世代間交流事業など、福祉関係機関との連携、情報提供の充実に努めた。
- ・地域福祉情報の発信、地域包括支援センター共通HPの立上げ支援他。
- ・在宅高齢者生活支援サポーター養成講座の他、各種研修会を開催・参画した。



課題・提言

- ・地域の福祉とは高齢者だけではなく、乳幼児も、障害を持った方々も全てが対象であろう。そのような大きな視野から地域福祉を充実させて頂きたい。
- ・在宅高齢者生活支援は重要課題である。調査が必要と感じる。そして、地域社会の高齢化が地域福祉事業活動に及ぼす影響について、これからの大きな課題である。
- ・地域福祉懇談会、地域ケア会議を、より活発に、未実施の地域で開催する支援を行っていく必要がある。福祉活動の推進役となる人材を発掘、育成する必要がある。
- ・生活支援サービスを行うNPO団体の増加は良いと思うが、地域福祉機関と共通認識を持って活動して頂きたいと思う。
- ・市や社会福祉協議会のホームページの情報が相変わらず不十分(少ない・古い)なため、実態が把握しにくい。
- ・実施計画事業7-3-1-①の運営内容についての記述が少ない。また、地域福祉支援室の活動が見えない。
- ・鎌倉市広報を利用し、新しい試みは何度も市民に訴えて頂きたい。
- ・地域福祉を独立させた形ではなく、地域運営のなかで取り組んでいくべきである。(コミュニティ活動の活性化施策との連携。)
- ・基本計画の目標である「地域での支え合い」はコミュニティ活動の活性化によるところが大きいと考えられるため、統合を検討すべきである。

この分野のめざすべきまちの姿に向けた平成23年度の取組は、普通であった。